

「がんばろうや！西播磨」交流会 開催結果

<趣旨>

西播磨の将来像についてみんなで考え、意見交換を行う西播磨地域夢会議を、西播磨地域で活動している各分野の関係団体が交流を図る「がんばろうや！西播磨」交流会として開催し、団体間の連携強化・情報共有と西播磨における活気ある地域づくりを目指す。

併せて、第5期西播磨地域ビジョン委員会活動の3ヶ年の活動を総括して発表する。

<概要>

1 日 時 平成24年2月26日(日) 11:00～14:20

2 場 所 西播磨県民局 大会議室

3 テーマ 「がんばろうや！西播磨」

4 内 容

11:00～ (1) 開会あいさつ

西播磨地域ビジョン委員会委員長 山本 建志

兵庫県西播磨県民局長 藤原 由成

(2) 専門委員紹介

11:10～ (3) 活動発表

西播磨消費者団体連絡協議会 日本防災士会西播磨支部

西播磨地区商工会女性部連絡協議会 子どもの遊び場を考える会

西播磨元気プロジェクト リコーダーアンサンブルドルチェ

神岡地区連合自治会 相生市南町連合自治会

12:20～ (4) 交流会

地場産品使用の「おいしさ自慢かあちゃん弁当」を食べながらの交流会

13:25～ (5) 活動発表

西播磨地域ビジョン委員会 各推進チーム

子育て支援推進チーム 健やかな子ども応援チーム

防災・防犯推進チーム 生活環境推進チーム 農村来夢推進チーム

はーとふる西播磨推進チーム 県境エーとこ発掘隊

14:05～ (6) 全体講評

西播磨地域ビジョン委員会専門委員 熊谷 哲

14:20 (7) 閉会あいさつ

西播磨地域ビジョン委員会副委員長 田寺 智砂子

5 参加人数 70名

活動発表団体概要

西播磨消費者団体連絡協議会

西播磨地区の消費者団体相互の連携を密にし、消費生活の安定及び向上を確保することを目的に活動している。西播磨消費生活センターや各市町の消費生活相談窓口とも協力し、各消費者団体相互の連携及び情報交換に関するもののほか、消費生活に関する情報の収集及び調査研究に関する事業に取り組んでいる。(規約より)

【問：西播磨消費者団体連絡協議会事務局 TEL0791-58-1193】

日本防災士会兵庫県支部西播ブロック

日本防災士会は、防災士の資格を有する有志で構成された特定非営利活動法人(NPO法人)です。会員相互の交流と親睦を図り、一人ひとりのスキルアップと地域防災力の向上をめざし、安全で安心な社会の実現のために活動している。各地で会員が連携して日本防災士会の「支部」を結成し、独自の計画に基づき地域貢献活動を進めている。(日本防災士会HPより)

【問：西播ブロック事務局長 森川 TEL079-277-4770】

西播磨地区商工会女性部連絡協議会

西播磨地域における豊かな生活環境を築くため、女性の特性を活かして、商工業の発展と地域社会一般の福祉の増進を図ることを目的に活動している。研修事業をはじめ、ふるさとづくりを推進するための地域活動事業や健康づくり、生き甲斐づくりを推進する福利厚生事業などに取り組んでいる。(規定より)

【問：西播磨地区商工会女性部連絡協議会事務局 TEL079-277-2566】

子どもの遊び場を考える会 赤とんぼ

子どもに自然の中で創造的・冒険的な遊びができ、旺盛な好奇心やエネルギーを発散させのびのびと遊ぶ場を提供し、強く生き抜く力を持った子供の育成に寄与することを目的に活動している。子どもたちがやりたいことを自分で見つけてチャレンジする場として、「プレーパーク赤とんぼ」を、たつの市の揖保川町河川敷「水辺プラザ」で毎週土曜日に開催している。(会則より)

【問：代表 森 TEL0791-62-2229】

西播磨元気プロジェクト

夢をもって新しい分野に挑戦し西播磨を元気にしようと取り組んでいる団体や個人を「出る杭」として育成するとともに、西播磨の誇るべき歴史・文化・伝統、産業、自然環境などに目を向け、その魅力を地域内外に発信し、「元気な西播磨づくり」を目的に活動している。出る杭大会の企画運営や地域活動団体の交流促進などに取り組んでいる。(設置要綱より)

【問：西播磨元気プロジェクト事務局 TEL0791-58-2115】

リコーダーアンサンブルドルチェ

リコーダーの演奏を通じ、会員の親睦連携を深め、技能資質の向上に努めると共に音楽文化の発展に寄与することを目的に活動している。各種イベントでの演奏のほか、リコーダーコンクールにも参加し数々の賞に輝いている。今年度は「はりまりリコーダー交流会」や「はりまりリコーダーオーケストラ Debut2012」を開催するなど、音楽を通じた交流の促進と地域振興に取り組んでいる。（「地域づくり活動応援事業（ ）」より）

【問：こころ豊かな美しい西播磨推進会議 TEL0791-58-2128】

神岡地区連合自治会

たつの市神岡地区の円満なる発展に寄与することを目的に活動している。子ども達や高齢者をはじめ住民が住みなれた安全・安心な地域づくりのため、地域の核として活動している。今年度は老人クラブやPTA協議会とも連携し、「ふれあい祭り」や「もちつき大会」を開催するなど、各種団体と協力しながら持続的なまちづくりに取り組んでいる。（「地域づくり活動応援事業」より）

【問：こころ豊かな美しい西播磨推進会議 TEL0791-58-2128】

相生市南町連合自治会

相生市の繁栄に協力すると共に、会員の文化教養を高め、相融和して、より明るい市民生活を求めるように務める事を目的に活動している。清掃活動や地域の見守り・防犯活動を継続的に実施しているほか、今年度は管内NPO法人と連携し、存続が危ぶまれていた伝統事業の「ちびっ子相撲大会」の企画運営にも取り組んでいる。（「地域づくり活動応援事業」より）

【問：こころ豊かな美しい西播磨推進会議 TEL0791-58-2128】

西播磨地域ビジョン委員会

平成 23 年 10 月に見直しが行われた、「西播磨地域ビジョン」を地域の県民の参画と協働により実現していくために設置され、「光と水と緑でつなぐ - 元気西播磨」を基本姿勢に活動している。知事に委嘱された委員が、自ら設定した地域課題の解決にむけて、様々な分野で地域活動に取り組んでいる。（設置要綱より）

【問：西播磨地域ビジョン委員会事務局 TEL0791-58-2115】

地域づくり応援活動事業

地域団体が創意工夫をこらして主体的に進め、地域社会の共同利益の実現を目的に実施される新たな取り組みに対して経費の一部を助成する事業。

【問】こころ豊かな美しい西播磨推進会議 TEL:0791-58-2128

交流会で聞かれた意見

交流会に対する意見

- ・食事をしながらの交流会は和やかで良かった。
- ・お弁当がとてもおいしい。地産地消の話題にもなった。
- ・こういった交流会の場をもっと多くしても良いのではないか。
- ・定期的な連絡会のようなものがあれば良いと思う。
- ・団体同士が話し合える場所と機会は意外と少ないのでこういった取り組みも必要。
- ・自己紹介の時間が長くなってしまった。



活動発表に対する意見

- ・「赤とんぼ」と「ドルチェ」が繋がれば、体と音楽のコラボで面白いのでは。
- ・相生の子ども相撲は世代間のつながりができ、伝統行事を守る姿に感激した。
- ・活動を継続している団体を具体的にもっと知りたい。
- ・限られた時間の中でどれだけ相手に伝えられるかも重要。
- ・それぞれの思いを持って活動していることに触発された。
- ・知らなかった団体のことが分かってよかった。
- ・各団体の活動状況をもっと多くの人に発表する方法・機会はないのか。
- ・ビジョン委員会の活動内容を知る良い機会となった。
- ・神岡連合自治会の取り組み内容は各世代間の交流をうまくやっている。
- ・「西播磨元気プロジェクト」で例えば活動の種類（福祉、子育て、環境）ごとに交流会を立ち上げてはどうかと思う。ある程度活性化した段階で交流会と発表する場「交流会サミット」のようなものを開催してはどうか。



団体間の連携についての意見

- ・色々なイベントに各団体で参加し、輪を広げるのも良いのでは。
- ・昼食が必要な場合には食の団体と連携したい。
- ・個々のつながりも弱いので個人でネットワークを広げる努力を。
- ・土日は行事が重なることが多く、人集めが大変。複数の団体に所属している人も少なくない。
- ・各団体の意識の向上、横のつながりは必要。意見交換で問題点を共有する。
- ・子育て分野を中心に活動している団体に昔の遊びを教えてほしい。
- ・団体の取り組みや他との連携にはリーダーの存在が大きい。
- ・仲良しグループと違い、ビジョン委員に参加することで地域の活性を望む。
- ・団体同士の情報交流は是非やりたいものの、どうしていいのかわからない。
- ・お互い合併するのは無理だけど、意見を交わすうちにお互い参考になる所を良いところ取りすればいい。そのためにも交流会は是非必要。
- ・個人的な集まりになるが、年に1回は子どもや孫達と集まりゲームなどを行っている。安心感もあり、交流会にしても年に1回の開催でも継続的にやると良い。
- ・各自治会や連合としてのつながりはイベントを行えば十分にできる。西播磨で活動する各種団体を誰がどのように結びつけるのかを考えてみる。

その他・活動課題等についての意見

- ・子どもが少ないので何とか活性化する方法を考えなければならない。
- ・母校がなくなる。危機感がなく技術が引き継がれないと外に流出してしまう。若者の住みやすさ、根本から変えていかないと増えない。
- ・団体内の新陳代謝ができていない。若い世代と交流するにはどうすればいいか。
- ・交通費なども運営上の課題となっている。
- ・例えば学生に協力を依頼することで、組織の活性化と地域との交流を図ることができる。
- ・意識を持つことが重要。まちづくりについても自発的に行っていきたい。
- ・資源を活かすリーダーが必要。
- ・地域の防災は誰が担うのか。手を挙げる人はなかなかいない。
- ・地域の人が高齢化について危機感がない。
- ・もっと活性化しなくては、少子高齢化がどんどん進み、小学校が廃校となる危機がある。
- ・子どもの環境教育について、親の教育も必要。
- ・子どもの衣・食・住が全て贅沢になっている。
- ・自然の中で遊べる子が少ない。階段を下りるのは怖いジェットコースターは怖くない。
- ・親の意識がないと体験館などには来ない。体験に来る親子は熱心である。
- ・地産地消は地元の努力が大事。赤穂周世の弁当は2年程かけて完成している。
- ・今一番大事なことは、子ども達に食の安全安心教育を行うことである。
- ・それぞれの団体の活動を知ることによって、団体間の交流や情報交換ができたように思う。
- ・西播磨にある知られていない特産品などのPRをしていく必要がある。
- ・田舎は都会にはなれないので交流や情報発信に工夫が必要。
- ・小さな活動が大きな波になることもある。継続は力なり。